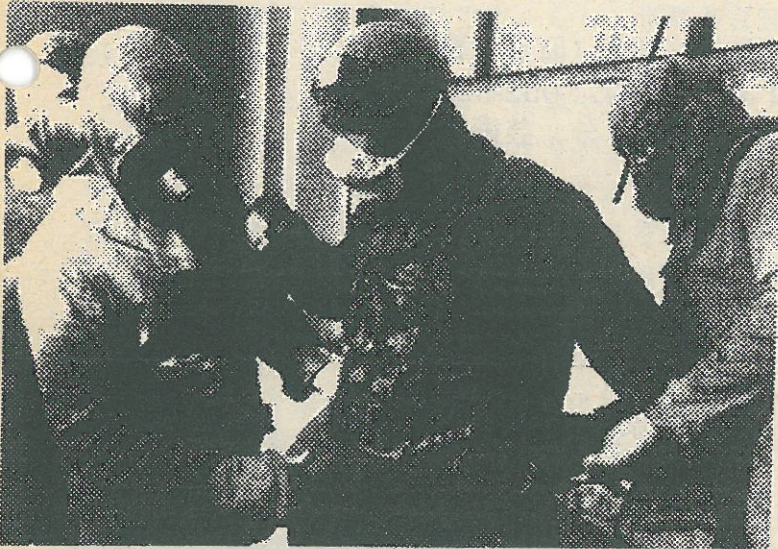


—— チェルノブイリに思いをよせて ——

ポレーション

汚染地で今なお新たな被曝！！

“事故処理作業者” 支援キャンペーン



チェルノブイリ事故から11年。もう…と言うのか、まだ…と言うべきか。事故当時、周辺地域の多くの消防士・警察官、さらにソ連全土から兵士たちが消火活動、放射能除染作業等にあたりました。

そして住民以外にもたくさんの人々が被曝しました。彼らは事故処理作業班として放射能汚染を最小限度に食い止める仕事をし、自らの体を放射

能に飲まれる事になったのです。現在も、立入禁止の30キロゾーン内での森林火災の消火活動や汚染地の管理に、内務省職員（警察官・消防士）があたっています。彼らは今なお消
●ぬ放射能に、新たに曝されています。ウクライナ訪問団による聞き取り調査や現地からの情報によると、まだ若く働き盛りの彼らは複数の病気を抱え、さらに彼らの子ども達も皆、病気で苦しんでいます。そこで今年度は、今までの支援に加えて、 “事故処理作業者” 支援キャンペーンを行なっていく事になりました。

（詳しくは、本文 2～3ページ）

◎5月のウクライナ訪問団の報告会も行ないますので、多数ご参加下さい。

〒466 名古屋市昭和区葵園町 137-1-10

チェルノブイリ救援 - 中部 代表：神野英樹

郵便振替：00880-7-108610

☎/FAX：052-836-1073（月・水・金 10:30～15:30）

チェルノブイリ事故処理作業支援キャンペーン・第1弾

「石棺を閉じた男たちの現在」

いま

‘97・ウクライナ派遣団報告会

- 日時：1997年11月22日（土）
14時～16時（13時半開場、事故当時のビデオ上映、パネル展示など）
- 会場：名古屋東生涯学習センター（旧東社教センター）
名古屋市東区葵1丁目3-21（TEL：052-932-4881）
地下鉄東山線「新栄」下車徒歩5分、芸術創造センターとなり
- 参加費：無料
- 主催：チェルノブイリ救援・中部（問合せ先：電話 FAX 052-836-1073）

今年5月、チェルノブイリ救援・中部のメンバーはウクライナを訪問し、ジトーミル州消防局のチェルノブイリ「事故処理作業員」の聞き取りを行いました。そして、チェルノブイリ事故直後、事故の拡大を封じるため、信じがたい放射線を浴びながら働いた人々の「現在（いま）」を伝えるため報告会を企画しました。

若くして過酷な事故現場に赴き、被爆し、その後いくつもの病気に見舞われ、十分な手当も受けられぬまま働き、又、家族、特に子どもたちの病気に胸を痛めながら、今なお汚染地域の消火活動に赴く人々。しかし、一方、過酷な現実を生きながら絶望に身をゆだねることなく、「生きていれば希望はあります」と語る事故処理作業員の実状を報告し、今後の支援を訴えたいと思います。



「チェルノブイリの悲劇を繰り返さないためには、その悲劇の内容を知ることから始めなければならない」（チェルノブイリからの証言・松岡信夫訳）

..... 忘れないで、事故処理作業員のことを..... （山盛）

日本のみなさまへ

チェルノブイリ原発の事故処理作業者を代表して、私達は、日本のみなさまに援助と支持を訴えます。4号炉に隠された核エネルギーが、放射能の雲に変わり、死と悲しみをばらまいた、あの「暗黒の日」から遠ざかるにつれて、私達は、ますます自らの弱さと、単独で何かをすることの難しさを思い知らされています。残された村々、友人の死、自分や子ども達の病気、生まれて間もない国家の経済的困難、などにより、私達は自分たちの未来を楽観的に見るができなくなっています。もし、国家と海外の友人達が助けてくれなければ、今日、事実上私達は悲しみと問題を抱えたまま取り残されます。

海外の多くの政治指導者達が（チェルノブイリ）原子力発電所の閉鎖を求めています。私達はそれに反対する者ではありません。しかし、原子力発電所の閉鎖だけでは問題は解決しないのです。もし、世界が私達を支援しなければ、放射能は世界の隅々にまでさまようことになるでしょう。

私達は、皆同じように生き、仕事をしています。今は誰にとっても困難ですが、特に消防士達にとってはそうです。彼らは汚染地域で火を消し、放射能の高い場所で仕事をしなければなりません。そして、この仕事は必要な技術や着衣の無い状態で行われるのです。何故？それは、私達には、安全に消火活動を行うために必要な機材を装備した新しい車や、消防服を買う資金が無いからです。政府はこの問題に関して私達を助けることができません。

援助を求めるのは精神的にとっても辛いのです。それにもかかわらず私達は、消防機材や事故処理作業員とその家族を治療するための医薬品・医療機器等を買うための資金の援助をみなさまにお願いするのです。私達は何故みなさまにお願いするのでしょうか？それは、時間が示すように、私達を援助し、あるいは援助を約束した人々の中で、唯一日本の人々だけが友情に対して誠実であることを証明し、あなた方だけが私達を見捨てず、私達を悲しみの中に置き去りにしなかったからです。今日私達にとって4月26日ばかりでなく、8月6日と8月9日もまた「暗黒の日」なのです。

私達二人は事故処理作業員であり、二人ともこの「地獄」で発電所の消火をし、原子炉の下から水を汲み上げました。もし、私達があのときその仕事をしなかったら、今日のウクライナも近隣諸国もこの地球上に無かったでしょう。私達にとって、みなさまにお願いするよりは、放射能に汚れた死のゾーンに行く方がたやすいのです。この事を分かってください。



チュマクさんとアントニュークさん

チェルノブイリ原発事故処理作業員協会

代表 チュマク

ジト-ミル州内務省国家消防・警備管理局

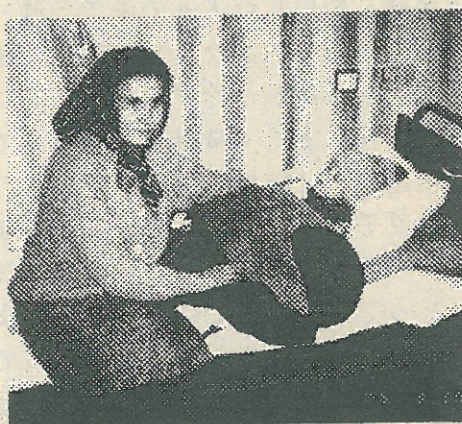
局長 アントニューク

<今年度の救援活動が、順調に始まりました！>

前号でも報告しましたように、私達の活動を支援するため、郵政省・外務省から補助金が交付されました。以下に、私達の救援活動の進捗状況を報告します。

- ①今年度は、支援をスタートするにあたり、新たに、現地の支援先（たとえば、「ジトーミル州立小児病院」や「事故処理対策作業員協会」等）と、直接「契約書」を取り交わす事から始めました。これにより、「移住基金」のような民間団体が、日本からの荷物（救援物資）の受け渡しをする際の困難（ウクライナ国から、税金をかけられたり、たくさんの書類の提出を強制されたりというさまざまな困難）を大幅に軽減する事ができるようになります。
- ②「移住者の村（ゼレムリャ村診療所・バラノフカ病院・ブルシロフ病院）」の支援のため、約 375万円を国際送金しました。「移住基金」の立ち会いのもと、医療機器やおよそ1年分の医薬品が現地で購入され、病気で苦しむ移住者の人々の治療に生かされています。
- ③「事故処理対策作業員協会」に、約 50万円を国際送金しました。同協会のチュマクさんやアントニュークさんの手により、さっそく医薬品が購入され、私達の「事故処理作業員支援」がスタートしました。いよいよ「キャンペーン」が始まります。あらためて、皆さんの暖かいご協力をお願いいたします。
- ④汚染地の病院に、「命の水」をプレゼントして半年が過ぎました。そして今また、あの「ナロジチ病院」に、「暖かい冬」を贈るための工事がスタートしました。私達は、ボイラーの工事費として、180万円を国際送金しましたが、現地ジトーミルでも、政府から補助金を出させる「働きかけ」が活発に行われています。これは、彼等自身の手で追加資金を集め、「セントラルヒーティングシステム」を完成させようとしているためです。現地でも、着実に「自立のための努力」が進められているのです。この工事は、すでに現地の業者によって始められており、順調に行けば、10月の中頃までに完成する予定です。

「命の水」キャンペーンの時と同様に、皆さんの暖かい応援を待っています。



<ナロジチ病院に入院中の母子>

- ⑤10月の「視察団」代表が決定しました。メンバーは、河田さん・原さんの2名です。10月21日から31日までの11日間、主にナロジチ病院の暖房設備の完成確認、移住者の村に送られた医薬品・医療機器の確認、そして、「事故処理対策作業員協会」の皆さんとの話し合い等が予定されています。（J）

とどけウクライナへ！

97 ミルクキャンペーン をはじめます!!

チェルノブイリ原発事故から12回目の冬を迎えるウクライナでは、依然として、経済状況が改善されないため、日用品も食料も足りない状況です。汚染地では今も、汚染された食べ物を食べざるを得ず、食料品店の中では、物乞いする人すらいます。このような状況を見ると、改めて原発事故の悲惨さを考えさせられます。そして、子ども達は汚染された食料によって、あるいは、汚染された土地に住んで、いつも病弱です。私達は、これまで「医薬品や医療機器」そして「汚染されていない粉ミルク」を現地に贈るとともに、年末にはたくさんの「クリスマスカード」を現地に届けてきました。

私達「チェルノブイリ救援・中部」は、今年もミルクキャンペーンを行います。昨年同様、通常の粉ミルクと特殊粉ミルク（フェニールケトン尿症児用）を届けたいと思います。

毎年、日本から贈られる粉ミルクは、あたかも「薬を処方する」かのようにして大切に使われ、医師からも「日本の粉ミルクはトラブルがなくて使いやすい。」と好評です。

厳しい冬を迎えるウクライナの赤ちゃんや、子ども達は、粉ミルクとクリスマスカードを心待ちにしています。ぜひ、今年もミルクキャンペーンに皆様の暖かいご支援をお願いします。

キャンペーン期間

ミルクキャンペーン 10月1日～12月31日

ミルク代の振込は、ひと口 2,000円

(1kg入りのミルクが1缶買えます。
半口 1,000円でもかまいません。)

郵便振替用紙で、下記までお振り込みください。

振込先名称 チェルノブイリ救援・中部

振替口座 00880-7-108610

担当団体 「伊那谷いのちがだいじ！連絡会」

連絡先住所 長野県上伊那郡南箕輪村 9955-2

Tel 0265-73-9355 (原)

Tel 0265-73-6103 (小牧)

クリスマスカード 10月1日～12月10日

担当団体 救援・一宮「つぼみを守る会」

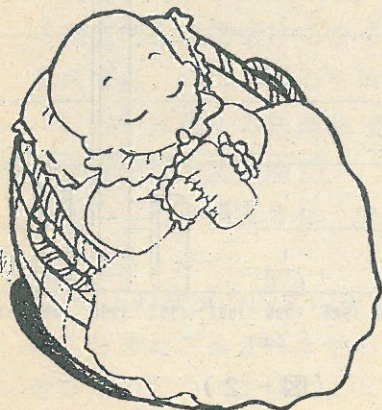
救援・大垣「むらさきつゆくさの会」

郵送先 491 一宮市今伊勢町宮後字西茶原 62-5

Tel 0586-46-0263 (中嶋しぐれ)

503-22 大垣市稲葉西2丁目22

Tel 0584-91-6049 (大谷早苗)



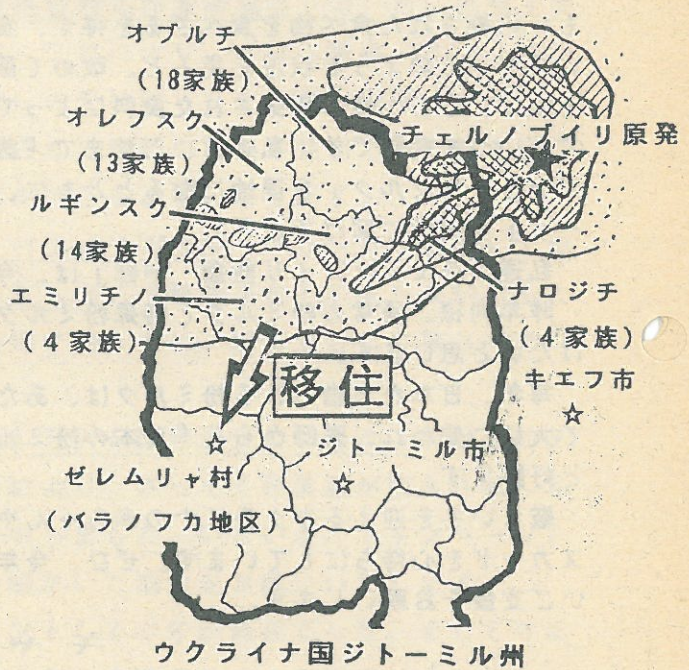
ゼレムリャ村のアンケート調査結果について

文責：神野美知江

1. 移住者の村（ゼレムリャ村）について

- ・チェルノブイリ原子力発電所の爆発事故により、汚染された地域を避けるかのように、ウクライナ南部を中心に移住者の村が建設されました。
- ・ジトミル州においても、ジトミル地区を中心に31の移住者の村が点在しており、4,300家族あまりが移住を終え、新しい生活を始めています。
- ・ジトミル州では、最終的に6,400家族が移住する予定になっていますが、移住政策は大幅に遅れています。
- ・ゼレムリャ村は、ジトミル州にある移住者の村の一つです。（図-1参照）
- ・1995年までに、ほぼ移住が完了しましたが、事故が発生してから、6～7年もの長い間、人々は汚染地に住み続けたこととなります。

Q：移住前は、どこに住んでいましたか？

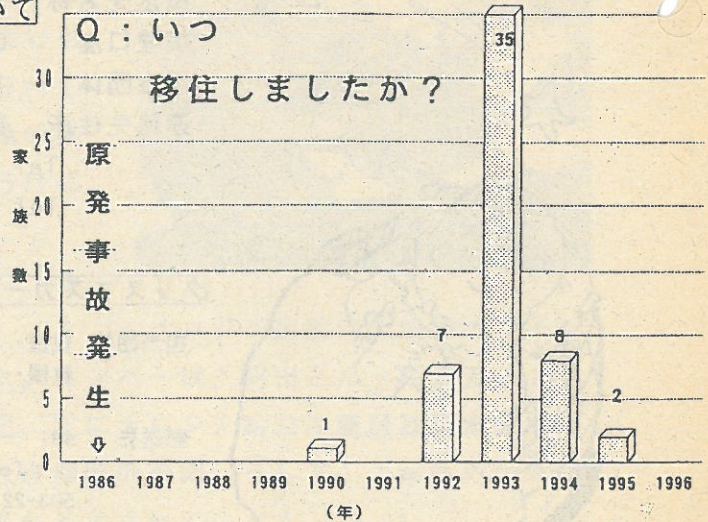


(図-1)

- ・この村にある「ゼレムリャ診療所」は、診療所として建設された建物ではなく、移住者用の住宅を転用する形で、1994年に開所されました。
- ・今回の調査は、ゼレムリャ診療所を通して、汚染地からゼレムリャ村に移住をした280名を対象に、アンケートを依頼し、回答のあった53世帯についてまとめたものです。

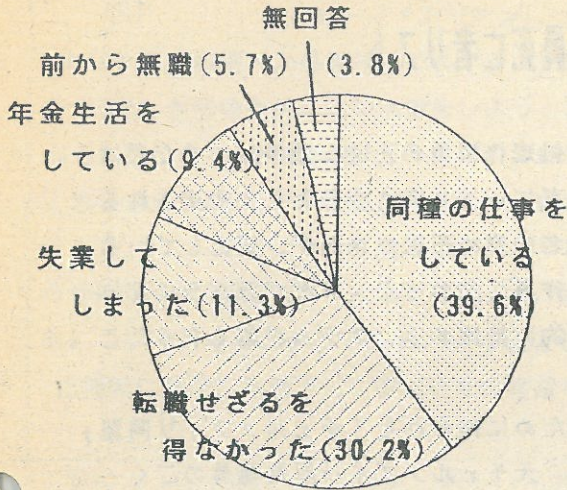
2. ゼレムリャ村の移住者達の生活について

- ・移住者は、住み慣れた故郷が、放射能で汚染された為に、見知らぬ土地で、見知らぬ人々との慣れない生活を始めました。それは、新しい土地で仕事を見つけ、生計を立てると言うことです。
- ・一部の公務員は、移住をしても仕事を継続できましたが、多くの方は、転職や失業を余儀なくされました。（図-3参照）
- ・移住した土地で働いても、すぐに現金収入につながる仕事に就ける



(図-2)

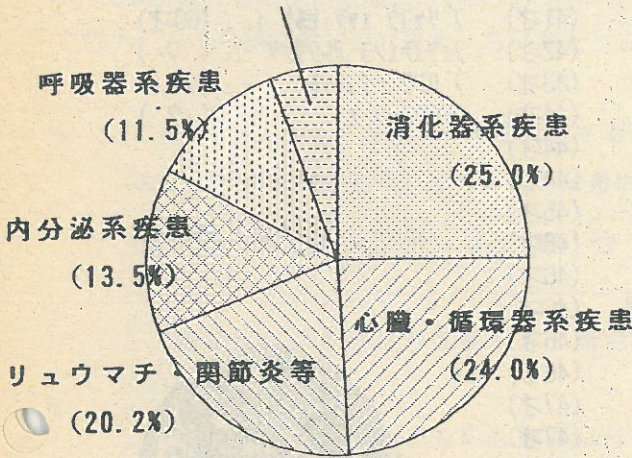
Q：移住により仕事はどうなりましたか？



(図-3)

Q：今どんな病気にかかっていますか？

泌尿器系疾患 (5.8%)



(図-4)

とは限りません。そして、家とともに与えられた畑で、自給自足をする生活に順応できず、再びこの村を後にした移住者も少なくないと聞きました。

移住者の生活は、質素ですが、それぞれに工夫を凝らし、それなりに安定した生活であるかのように見受けられました。しかし、家族がかかえている病気が悪化すれば、その生活の安定は保証の限りではありません。

3. 移住者達の健康状態について

アンケートで「診療所で治療を受けている病名」を尋ねたところ、一世帯に2~3種(総数130)の病名が記入されました。(図-4参照)

これほど多くの疾患に罹患している事実を、被曝の後遺症であると結論づけることはできませんが、因果関係を否定する調査結果も全く存在しないのです。

しかし、アンケート調査に回答した全ての世帯に、病気で苦しむ家族がいるということは特筆すべきでしょう。

4. セレムリヤ村の村人達の感想

「本来、国が責任を持って実施すべき救済を、なぜ遥か遠く離れた日本人達が代わりに行ってくれるのか、今までよく理解できませんでした。」

- ・「私達に対する、日本の人々の真の友情(人道的支援)を知り、心から感謝します。」
- ・「物質的な援助だけでなく、心の支えもたいへん大きいのです。私達のことを忘れずに、いつも関心を持っていてくれることが、とてもうれしい。」
- ・「セレムリヤ診療所の医薬品・医療機器の援助を必要としています。」 etc.

5. 調査結果をまとめて

- ・今回のアンケート調査を行ったことにより、お互いの心の絆が強くなったような気がします。
- ・ウクライナ国の経済の混乱の中で、移住者の村の人達の「自立への道は、まだまだ長い」と言わざるを得ません。しかし、私達「チェルノブイリ救援・中部」は、日本の皆さんの暖かい支援により、必ずその道が開けてくると確信しています。

チェルノブイリ原発職員死亡者リスト

チェルノブイリ原発事故で亡くなった、事故処理作業員の正確な数字は、未だにはっきりしない。事故後、ソ連政府が発表し、未だに公式の死亡者数として引用されるのは、31名に過ぎないが、実際は既に7~8,000名の事故処理作業員が、死亡していると言われる。それは事故の後、ソ連が崩壊し、作業に加わった人々がバラバラになってしまったこと、国の分裂によって全体を統一的に把握するシステムが無くなったことなどによる。

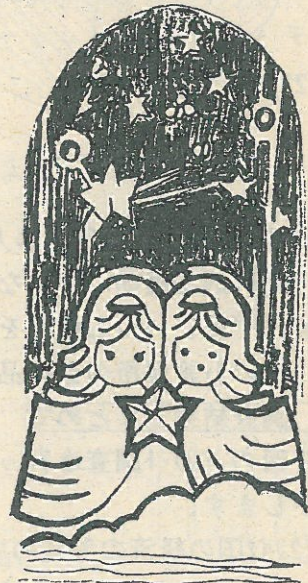
以下にあげるのは、事故処理作業員の救済のために作られた「チェルノブイリ同盟」が把握した、1986年から1989年の間に死亡した、元チェルノブイリ原発職員のごく一部のリストである。ウクライナ保健省が把握しているだけでも、これまで年間5~800名が死亡してきた。心から、ご冥福を祈りたい。

http://www.halcyon.com/black_box/hw/staff.txt から引用。(河田昌東)

ヴァイク・アレクサンダー	(25才)	ホノマロフ・ウラジミール	(40才)	ニコラフ・ビョートル	(56才)
ロバチウク・ピョートル	(26才)	ホノマロフ・ワレリー	(41才)	ブリャコフ・イッサ・セルゲイ	(60才)
トプツノフ・レオント	(26才)	スアカ・ピョートル	(42才)	フィラチenko・アレクサンダー	(?)
ベルシニン・ユーリ	(27才)	ダンチenko・パレンチナ	(43才)	ブロンザ・イゴール	(?)
クルフス・アナトリー	(28才)	コバール・ユーリ	(44才)	クツネツォーフ	(?)
チェルナヤ・アントニナ	(28才)	アルタモノフ・ゲンナジ	(44才)		
クワサ・ウラジミール	(28才)	セルゲエフ・アマリア	(44才)		
ブラスニコフ・ヴァチスラフ	(29才)	マルチenko・ワツラー	(45才)		
クワリャフチェフ・アレクサンダー	(29才)	ヤホフ・ワフ・アナトリー	(46才)		
クワトフ・アレクセイ	(30才)	ヤコフ・アナトリー	(46才)		
ブロクワコフ・ピョートル	(31才)	コンチヤコフスキー・ピョートル	(46才)		
デチャレンコ・ピョートル	(32才)	ヤシルビナ・ワツラー	(46才)		
ロス・アレクセイ	(32才)	イルツォフ・ユーリ	(46才)		
ヴェルコフ・イゴール	(32才)	カルガホフ・パレリー	(47才)		
バラノフ・アナトリー	(33才)	ザドリツ・ミハイル	(47才)		
アキモフ・アレクサンダー	(33才)	ジューボ・デニス・ワツラー	(47才)		
カムヤロフ・ウラジミール	(33才)	レチenko・アレクサンダー	(48才)		
ベルチウク・コンスタンチン	(34才)	チェルニ・イワン	(48才)		
ネチホレンコ・イカテリーナ	(34才)	ラウツキン・ユーリ	(48才)		
ズモク・エフゲニー	(34才)	ミーツ	(48才)		
ホドムチウク・パレリー	(35才)	コロソフ・ウラジミール	(48才)		
ヤスヤエフ・ウラジミール	(35才)	ヴェルチコフ・アレクサンダー	(49才)		
ヴァシコフ・ウラジミール	(36才)	リャコフ・スタニスラフ	(49才)		
リャザノフ・アナトリー	(36才)	ベルシニン・ユーリ	(49才)		
セルブリャコフ・アレクサンダー	(37才)	ヤイダナ・イレナ	(50才)		
グリャノフ・ユーリ	(38才)	ジュズン・ウラジミール	(50才)		
ホズニャク・ウラジミール	(38才)	ヤラモフ・ニコライ	(51才)		
ベルシチenko・パレリー	(39才)	ソベエフ・イリョ・セルゲイ	(51才)		
フォメノフ・ワレリー	(39才)	ブドニコフ・イワン	(52才)		
ジデリン・アレクサンダー	(39才)	ニコラエフ・ボリス	(55才)		

以上 65名。

()内は死亡時年令





ユーリさんからの手紙 (要約)

みなさんのお蔭で、冬までにセルゲイの治療のクールを大体終えることができると思います。その後は、予防のために時折治療をしようと思います。来年の春から、医療費を自分で払えるようになると思います。仕事もつとうまくいくはずです。その頃まではあなたがたに貰ったお金で足りると思います。あなたがたから戴いた大きい援助は、セルゲイの健康の維持に大きな役割を果たしてきました。完全な回復について語るのはまだ早すぎますが、もう大きな成果があります。皆さんに心から感謝します。最近セルゲイは気分がよく、明日から短大で学生として勉強し始めます。一年前はそれについて考えることができない程、状況が厳しかったのです。

ご援助に参加した皆さんに直接お礼の言葉を言うことができないのが残念です。

31・08・97

ユーリ



ご覧のようにセルゲイ君の未来に明るい光が射し始めています。ユーリさんも仕事が軌道に乗りそうので、医療費が賄えるメドが立ったようです。従って、一年にわたり多くの方々からご協力いただいたセルゲイ君への支援をひとまず終わりたいと思います。最終的に(9・10現在)61人2団体から総計411,671円のご支援を戴きました。セルゲイ君がよい状態を保っていられるのば、みなさんの支援が彼の心の支えになり、免疫力を高めているのだと私共は信じております。

ご協力に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。 チェルノブイリ救援・岐阜

P. S. ユーリさんが近く仕事で日本を訪問する計画があるとのこと。うまく調整がつけば私達との出会いが持てるかも知れません。その時は、みなさんにも連絡させていただきます。

支援者からのお便り

(前略) いつもお便りを読んで、精力的に活動されている皆様に畏敬の念を抱いています。

今の日本には、子どもにも贅沢に与えられるだけのお金があり、食物は輸入してまで捨てているような状況で、それが日本人の勤勉の賜物とは言え、行き過ぎではないかと感じています。

日本にも困っている人はいるのですが、それは外国の本当に困っている人から見れば贅沢な方でしょうし、日本の国には国内の困っている人を助ける能力があります。

私には皆様のように行動する勇気も時間もありませんが、幸い健康と仕事に恵まれ、共働きと言うこともあって、お金だけは出すことができます。お金だけを出して人を出さないのが日本の援助だという批判もありますが、それでも何かの足しになるのなら、喜んで寄付させていただきたいと思っています。

(後略)

8月29日

(A. S)

ガールスカウト国際平和の日に チェルノブイリの募金活動！

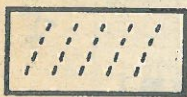


これまでも、毎年粉ミルクキャンペーンなどでご協力下さっている、ガールスカウト日本連盟愛知県支部、名古屋中地区の皆さんが、今年も「国際平和の日」（9月16日）にちなんで、「チェルノブイリに粉ミルクを贈るための街頭募金活動」をして下さいました。酷暑も少し峠を越え、予報では曇りか雨との事でしたので心配しましたが、9月7日（日）の当日はすっかり晴れ上がり、炎天下の募金活動になりました。午前10時、名古屋駅西口に集合したのはなんと181名の大人数。駅裏は青の制服の子



ども達でいっぱいになりました。事前にチェルノブイリの学習をするなど、気合いが入っていました。小中学生が中心のように見えたが、リーダーのお姉さんや、幼稚園くらいの子も達もちらほら。リーダーの説明と救援・中部の神野代表の挨拶がすみ、数人ずつに分かれて、名古屋駅周辺一帯で「チェルノブイリの募金を御願いまーす」などと大きな声で募金を始め

ると、通りすがりの人々の中から、募金に応ずる人々が出てきました。子連れの若いお母さん、背広のサラリーマン、近郊から出てきたらしいおじさん、女子高生、腹巻きのおっさん、若い男の子など……男女をとわず本当に様々な年齢、職業の方が募金されるのにはびっくりしました。名古屋駅周辺は時ならぬ「チェルノブイリ」の声がこだました2時間でした。ガールスカウトの皆さんはみんな汗びっしり。本当にご苦労様でした。後日、代表の笠井さん、加藤さん等3名が集まった募金をもって救援・中部の事務所を訪れ、152,069円のミルク代を寄付して下さいました。本当にありがとうございました。



チェルノブイリ救援・名古屋が小牧でバザー 秋晴れならぬ土砂降りの雨でしたが……

9月14日、今年も「小牧青年会議所」主催の「エコロジー・バザー」に名古屋NGOセンターの一員として、参加しました。神野、山盛、渡辺、横尾、樋口、河田の6名。台風の影響で朝から安定しない天気でしたが、寝不足の眼をこすって午前8時半に現場の小牧市役所駐車場に到着する頃には、晴れてきてひと安心。ウクライナで買って来たおみやげ品やパネル、事務所の倉庫からかき集めてきた雑貨を並べると、狭い割り当て空間はぎっしり。やがて、横尾さんの小牧の友人が、沢山の瀬戸物や食器などもって現れ、全部寄付して下さいました。地の利も良くななく心配でしたが、とにかくダンピングを売り物にして、結構売れ行きは上々。さて、昼飯でもと思ったら、あっと云う間に黒雲が空を覆い、土砂降りの雨になってしまいました。あわてて、ビニールシートを商品にかけましたが、しばらく止みません。傘をさしたまま、あるいはシートを頭上に持ち上げて雨宿り、びしょ濡れになりながらも立ったまま弁当は食べるたくましい救援・名古屋の面々でした。雨も止みそうになく、午前中で終わり。売り上げは23000円ほど。決して多くはないが、こんな苦労もウクライナの人々に知って欲しい。 (K)

竹内さんのウクライナ便り

<97. 8. 29>

(キエフ駐在員 竹内 高明)

みなさんお元気ですか。私の日本帰国中は、ドンチェバさんともどもいろいろお世話になり、おもてなしいただき、本当にありがとうございました。キエフでは、私が戻って以来、20℃前後の気温が続いており、今週に入ってから雨がちの天候で、今日(28日)などは17~18℃と極めて過ごしやすい陽気、日本の暑さが嘘のようです。なんだかさびしく感じられるくらいです。

先日、知人ニーナさん宅に伺い、同じアパートに住んでいた、やはりブリビャチから移住した女性(40代後半。甲状腺を摘出していた)が亡くなったというニュースがありました(直接の死因は不明)。ニーナさんの話では、やはり同じアパートの住人でチェルノブイリで働いていた男性が、胃ガン(かなり進行していた)の手術を受けることになり、いざ手術台に乗ったところで麻酔薬が病院にないことがわかり、この人は怒って以後手術を拒否し、民間療法(薬草)で治療したが亡くなった、というウソのような本当の話があるそうです。ニーナさんは数日前、脚がひどく痛み鎮痛剤を飲んだということです。(中略)

さて私は、ヴィザの更新と大学講師としての契約の更新手続き(いろいろと手続きが繁雑)をしているところです。9月1日から大学の新年度が始まります。(中略)

さきの独立記念日(24日)には、私は都心にも出ず、TVも見ずに過ごし、夜、花火の音だけを聞きました。一方では黒海でNATOとの共同軍事演習をやっていた、と言うのも何か皮肉な気がします。とりあえず、今日はここまで、また連絡します。

<97. 9. 8>

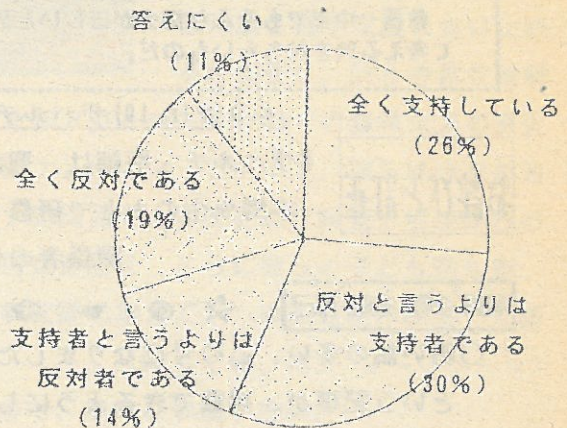
世論調査：ウクライナの独立に対する

あなたの個人的な態度は？

(成人1,200人回答)

- 全く支持している.....26%
- 反対と言うよりは支持者である.....30%
- 支持者と言うよりは反対者である.....14%
- 全く反対である.....19%
- 答えにくい.....11%

(「День」8/19号)



昨今の物価 (1ググナ=100コペカ, 1ドル=1.85~1.86ググナ, 1ググナ=約65円)

散髪(洗髪なし) 6ググナ。キャベツ(中1個) 1ググナ。ホット・ドック 1~1.3ググナ。

A4版ノート(78ページ「再生可能紙」と記号の分からない標準つき) 1.5ググナ。日刊紙 30~40コペカ。

大学食堂で昼食(スープ、米と魚のフライ、パン2個) 2.3ググナ。地下鉄の定期(一ヶ月) 19ググナ。

トイレット・ペーパー(1本) 45コペカ。スパゲッティ(チェコ製 500g) 1.25ググナ。

鉛筆(中国製1本) 45コペカ。路線で売っている揚げパン(ピロシキ) 50コペカ。



お知らせ

S 被災者からの手紙集・第2集

…事故10周年にあたり、救援・中部から出した手紙に対する56人からの返事です。被災地の生活がよくわかります。

手渡し 200円

実費送料とも400円(振込)

S 放射能測定器

「シンテック」(被曝線量直読タイプ)

10,000円

「プリビャチ」(3種類の測定可)

30,000円



その他、絵はがきセット、オリジナル・ステッカー、本・資料などがあります。

詳しくは、事務局までお問い合わせ下さい

事務局日より

頻繁に襲来する台風の被害は心配だけれど、夏から秋へと季節の移ろいを感じる一時は、なかなかいいものだ。空は高く澄み渡り、光が繊細に風景を際立たせている。夕暮れどき、冷やかな風に吹かれれば、夏の喧騒に忘れていた少し切なげで穏やかな思いがふとよぎる。こんな季節は心静かに物事をじっくり考えてみるのにふさわしい。日ごろ当たり前のようにやっていること、感じていること、その自分の感じ方や思考方法など、立ち止まって振りかえてみることはできないだろうか。

救援・中部でもそんな機会がほしいと思う。私たちらしい「救援」のあり方を落着いて考える時を持ちたいものだ。

(山盛)、山盛)

40号(P.10)ザハルチュク医師の研修先に、誤りがありました。

お詫びと訂正

『ザハルチュク医師は、聖隷浜松病院のご紹介により、浜松医科大学・本郷先生のもとで研修しました。』と、訂正させていただきます。

関係者の皆様には大変ご迷惑をおかけいたしました。

編集後記

☆ ◎ ♥ ☺ ☻ ☼ ☆ ♥ ☺ ☆ ◎ ♥

○暗い話の多い、この号になりました。「支援して、こんないい結果が出ました!!」という記事が、掲載できるようにしたいですね。(寛)

○アンケート結果を報告して「ひとつ、仕事が終わったな…」という気持ちです。そして、「彼らをもっと理解したい」と、考え始めています。(美)

○日本では一段と進む長寿・高齢化。ウクライナでは人々の後にいつも病気や死の影がつきまどっている。その格差の大きさに駆り立てられるかの「救援」。(京)

○過去を悔やむ事なく、未来を思いわずらう事なく、現在を一生懸命生きる。現在(プレゼント)は、誰にも平等に与えられた人生の贈り物。(J)